

科目名		電気工事実習			
担当教員	富樫・藤田・杉本・町田		実務授業の有無	有	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	166時間
授業概要、目的、授業の進め方	壁付け作業を主体にケーブル工事、金属管工事、合成樹脂管工事の訓練を重ね、屋内配線・屋側配線の技術を自分のものにする。また、高所作業車運転訓練・引込み線工事、制御盤工作など、新たな分野にも取り組む。 クラスをA・B2班に分け、週ごとに実習室・講師を入れ替える。				
学習目標 (到達目標)	電気工事士免状保有者として誇れる技術を身につけ、卒業後は即戦力として現場で働くことができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	電気工事実技教科書 (雇用問題研究会) OneNote資料等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ケーブル配線工事 複線図の作図、寸法の検討、材料の選定、配線工事、竣工検査		作業板・天板を用いた施設にVVFケーブルで配線工事 複線図・材料表を丁寧に書く。絶縁抵抗の測定。(藤田)		
2	金属管工事 部材の選定、切断、ねじ切り、曲げ加工、配管、通線		ねじなし電線管・薄鋼電線管の加工と通線 工事場所に応じて部材を選び、加工ができる。(藤田)		
3	合成樹脂管工事 部材の選定、切断、曲げ加工、配管、通線		硬質ビニル電線管・PF管・CD管の加工と通線 工事場所に応じて部材を選び、加工ができる。(藤田)		
4	引込線工事 DV線の張力調整、接続		実習室内にDV線を渡らせ、敷設時の力の方向や力点を学ぶ。 引込線と屋側配線とのジョイント法、電柱部分の接続法を学ぶ。(藤田)		
5	計器取付け 電力量計の設置と接続		引込口に計器を取付ける 適切な電線を選び、端末処理・接続ができる。(藤田)		
6	特別教育 低圧電気取扱、フルハーネス安全帯、高所作業車		安全用保護具・防護具等を使用し、活線作業・活線近接作業 安全帯を装着し、ランヤードの掛替 高所作業車バケット内での操作 (専用テキスト使用・富樫)		
7	昇降柱訓練		企業連携 昇降柱訓練場にて実際に昇降柱を実施 (富樫)		
8	リレーシーケンス		DC24VおよびAC200Vリレーを使用した制御回路を作成 光電スイッチ等のセンサの活用 (富樫)		
9	フロートレススイッチ		フロートレススイッチを使って給水ポンプ・排水ポンプの ON/OFF制御ができる		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	課題	期末試験		毎回の作業内容を十分理解し、周囲と協力しながら課題に取り組むこと。単純に回路を完成させるのではなく、外観・品質・安全管理・作業環境の整備にも気を配ること。	
10 %	60 %	30 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電気工事会社にて実務44年(藤田)・40年(町田)・8年(杉本)、全員第一種電気工事士				

科目名		建築概論			
担当教員	田中 みちよ		実務授業の有無	有	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築物は電気設備がなくては建築の使命を果たすことができない。 建築で使われる用語は独特で戸惑うが、その用語を知らずして快適な空間を造り出すことは不可能である。 仕事上で事故やミス回避するためにも、電気技術者として知っておくべきことを学ぶ。 また、2級電気施工管理技術検定試験に関連する建築的内容も盛り込みながら進めていく。				
学習目標 (到達目標)	低圧屋内配線工事に関連する建築および建築設備の基本知識を得る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント(またはデータ)、データによる写真閲覧、実地解説				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築で用いられる単位		建築業界では現在も日本古来の単位(尺貫法)が用いられている現状を踏まえ、社会で戸惑うことがないよう習得を図る。メートル法と尺貫法の換算ができるようになる。		
2	建築構造の分類		テレビCMなどで目にするハウスメーカーを例に取り、建築構造の分類を学ぶ。		
3	建築生産工程		建築物の計画から工事竣工までのプロセスを知る。		
4	木造在来軸組工法の各部について		建築物の中でも圧倒的多数を占める木造在来軸組工法にもとづく各部位の独特な名称とその仕組みを知る。		
5	木造在来軸組工法における電気工事		木造住宅における電気配線工事の実例から注意点を学ぶ。建築構造の視点で、してはいけない配線工事の理由を理解し、応用することができる。		
6	住宅の断熱と省エネルギーについて		断熱気密性能が住み心地に直結して分かりやすい、住宅の断熱気密と日射の制御を知ること、建築物の省エネルギー対策を理解する。		
7	N I T 校舎内の建築設備		N I T 校舎を実例に、ビル建築における建築設備の役割と機能を理解する。		
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末テスト	取組姿勢			建築は職業的に関連性が高い分野である。常に暮らしの中に存在しているので、興味を持って建築を意識してほしい。 遠慮せずに気軽に質問してほしい。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務31年				

科目名		電気制御			
担当教員		津野 英夫		実務授業の有無	有
対象学科		電気電子工学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		電気制御・電子回路の制作とそれに関わる理論を念頭に、また、でき得る範囲内での電子・通信に関する技術の集大成でもある電子回路・プログラミング・工作技術・モータおよび駆動回路の制作を行う。 1. 電子回路に関する計算と論理を講義し、それを基とした演習、実習 2. 電子回路に関する基礎学習と実習、解説を繰り返し行うことによって知識とスキルの向上を図る。 3. 講義→注意事項→実技→反省→確認→習得を繰り返すことで、質の高い技術を習得する。			
学習目標 (到達目標)		次なる《上位の資格取得＝電気主任技術者（電験三種） ・電気通信工事担任者 第1級デジタル通信/第2級デジタル通信・2級電気通信工事施工管理士 ・2級電気工事施工管理士》の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書：『工事担任者 第1級デジタル通信 標準テキスト』 講師・印刷物の配布資料：『電験三種』 ・ 『デジタル回路入門』 ・ 『電気数学入門』			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	授業計画とその取り組みについての説明 ・四則計算・分数・小数・文字式・べき数の計算 ・2進数・16進数・Binary・BCD			方法：講義→演習課題→解法→解説 ①各種計算方法と論理の理解を目指し、デジタルとは何かの基本を理解させる	
2	・論理回路とブール代数（工担でも必要）との関係 ・指数計算・三角関数・√・累乗根			②準備学習：数学の基礎復習と演習	
3	電子回路の理論と制作 ①論理回路の学習②ブール代数・ベン図・真理値表③ブール代数とリレー回路との比較			方法：講義→演習課題→解法→解説 ①～②の論理を理解し、回路を制作 準備学習：配布資料に基づき回路構成の意味を学習と作成	
4	リレー回路の回路図と制作 ①自己保持回路とインターロック ②タイマー回路とカウンタ回路			方法：講義→演習課題→解法→解説 ①～②の論理を理解し、回路を制作 準備学習：講師の講義に基づき回路構成の意味を学習と作成	
5	シーケンサ（PLC）制御回路の回路図と制作 ①ハードウェアとしての制御盤の制作 ②ソフトウェアとしての制御プログラミング			方法：講義→演習課題→解法→解説 ①～②の論理を理解し、回路を制作 準備学習：講師の講義に基づき回路構成の意味を学習と作成	
6	③作品の企画立案・設計および制作 ④自己作品の評価と反省…随時行う…不具合の修正			パソコンを使っでのプログラミング	
7	定期考査試験 『工事担任者試験』『電気通信工事施工管理技士』『電験三種』の過去問題にて行う			方法：演習課題試験→解法→解説 第1級デジタル通信/第2級デジタル通信および電験三種の受験対応試験を計10回行い、成績に反映させる。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	評価試験			常に理論的な裏付けを習慣づけることを指針に指導する。 また、座学と実技を並行して行い、その際にスピードだけでなく『丁寧さ』・『正確さ』をより重視する。さらに《暗記力》よりも『考える力』・『実行力』が大切である旨を特に要求する。 なお、授業中での『ノートのとり方』を重視し、併せて、詳細な記述にも注力を望み、評価する。	
10 %	90 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		制御システム設計者として、製造の現場に45年間関わっていた			

科目名		電子回路			
担当教員		永井 恵一		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	工事担任 第2級デジタル通信、第1級デジタル通信には電験3種を目指しその基礎となる電気数学を基礎から復習する。世の中のグローバル化デジタル化のスピードは速くデジタル技術が益々重要になってくる。基礎理論をしっかりとマスターし、実習による回路製作を通じてデジタル技術の修得を目指す。				
学習目標 (到達目標)	工事担任 第2級デジタル通信の資格修得、デジタル回路の基礎で学んだことを土台としてリレー回路による設計&製作で実践する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	工事担任者 第1級デジタル通信「標準テキスト」				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	代数		中学校数学の再度復習し、四則演算、分数、指数計算、式の展開、比例式が十分使いこなせるようにする。		
2	ベクトル&複素数		電験3種の問題を解答する為に必要な高等学校数学のⅠA・ⅡBレベルの基礎力を復習する。		
3	文章問題		文章題から数式に置き換える能力向上を図り、各種国家試験に対応できるようスキルアップを図る。		
4	基数変換		2進数、10進数、16進数への基数変換をマスターする。		
5	論理回路①		AND,OR,NOT,NAND,NORなどについて理解を深める。		
6	論理回路②		論理式を簡単にするブール代数の諸定理をベン図、カルノー図を用いて理解する。		
7	リレー回路による設計&製作		デジタル回路の基礎で学んだことを土台として実際にリレー回路で設計&製作をする。		
8	C-MOSロジックでの設計製作		更に一歩進めてC-MOSを使用してロジック回路を設計&製作し、理解を深める。		
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	評価試験			各自専用ノートを持参すること。	
10 %	90 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電気メーカーで生産材営業35年(製造メーカーに対する営業)				

科目名	機器・材料および工具				
担当教員	杉本良純		実務授業の有無	有	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2級電気工事施工管理技術検定一次試験合格のための対策と、将来電気工事士として活躍するための応用力を身につけるための授業です 単なる過去問題の答練ではなく、実務に必要な事柄について掘り下げて学習します				
学習目標 (到達目標)	2級電気工事施工管理技術検定一次試験合格(11月12日)				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①2級電気工事施工超速マスター (TAC出版) ・②検定試験問題解説収録版 (地域開発研究所) ③第1種電気工事士筆記試験すい〜っと合格 (オーム社)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	電力系統と送変電設備 送電方式・送電線路・接地方式・送電線路を守るための設備・変電設備		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：送変電のしくみがわかる 準備学習：①P45-95、③P202-209を読んでくる		
2	電気鉄道 電気鉄道・き電回路・ちょう架		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：鉄道電気の特徴がわかる 準備学習：①P140-150を読んでくる		
3	模擬試験		PDFファイル		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点 20 %	定期考査 80 %	%	%	検定に合格するだけでなく、電気工事の仕事をするうえで必要な知識をしっかりと身につけよう。時間数が20時間しかなく、1日の時間数が多いので、絶対に休まないこと。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電気工事士として15年間電気工事の現場に係わっていた。第一種電気工事士				

科目名		I T 実習			
担当教員		多田 剛史		実務授業の有無	有
対象学科		電気電子工学科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1. 図面の基礎を中心に見方、描き方を J I S 規格に基づき製図法を学びます。 2. 製図の現場で多く使われている J W - C A D を学びます。 3. J W - C A D で建築平面図、電気配線図の描きかたを学びます。			
学習目標 (到達目標)		C A D 操作を通じ、図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、それとともに図面のいろいろな記号を理解できるようにする。基本機能を理解し、応用や各機能を使った演習を行う。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		補助プリントにて必要な文献・資料・課題を配付する。			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	設計と製図 ①設計と製図の違い、製図の種類等の必要性 ②線の種類や描き方の練習。			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
2	基礎図形 ①基礎図形と図面としての三角法を理解し簡単な図形描写			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
3	応用図形 ①図面の省略法、断面図等作図			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
4	寸法、記号 ①寸法及び寸法記号、公差等の描き方とその意味			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
5	図面仕様 ①用紙、尺度、図面枠、表題欄等図面を描くための基礎知識			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
6	図面を描く ①建築平面図 ②電気配線図			方法：プリント等の教材を使って説明し、作図演習。 ①②の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：配布プリントの予習とCAD操作の練習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題提出	取組姿勢			CAD操作をしっかり身につけるために、最初は確実に基本を固め、操作に慣れた段階で後半には応用力をつけてスキルを上げる。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		機械設計・製品開発者として、職場に17年間関わっていた			

科目名		配線図			
担当教員		富樫 久夫		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	一般用ならびに自家用電気工作物の配線図を読める・描けるようになるため、器具や電線・工手法の図記号や傍記のしかたを学び、図面の完全理解を目指す				
学習目標 (到達目標)	①図面のシンボルの意味がすべてわかる ②図面を見て工事に必要な機器・材料および工具を積算することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	第二種電気工事士筆記試験模範解答集2022年版 ほかオリジナル資料 (OneNoteにて配布)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	電気のシンボル (図記号)		電気のシンボルについて、問題集やJISを見ながら復習		
2	分電盤・制御盤の書き方		分電盤結線図を見て、その意味を理解する さらに、自分で描くことができるようになる		
3	一般住宅の配線設計		一般住宅の配線図を手本に、設計手法を学び、製図する		
4	店舗の配線設計		コンビニエンスストアの配線図を手本に、設計手法を学び、製図する		
5	高圧受電設備の配線図		キュービクル内の配線図を手本に、設計手法を学び、製図する		
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	期末テスト		前期は手書きの製図がメインとなりますが、パソコンやiPadを多用します	
20 %	30 %	50 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		電子計測器メーカーにてシステム開発に約5年従事 第一種電気工事士			

科目名		保安法令				
担当教員		田中 義徳		実務授業の有無	有	
対象学科		電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		一般用電気工作物の保安に関する法令を中心に電気関係法令を幅広く学ぶ。				
学習目標 (到達目標)		第2種電気工事士試験、第1種電気工事士試験の法令関係の問題を解答できるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ぜんぶ目で見えて覚える 第1種電気工事士 筆記試験 すい〜と合格				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	電気工作物の保安体系			電気の保安法令の概要を学習。電気工事士の位置づけと心構えについてテキストと資料を使って説明する。		
2	電気事業法および関係政省令			電気工作物の定義を学習。テキストと資料を使って解説。		
3	電気工事士法および関係政省令			電気工事士の目的と種類を学習。 テキストと資料を使って学習。		
4	電気工事業法および関係政省令			電気工事業法の概要を学習。 テキストと資料を使って学習。		
5	電気用品安全法および関係政省令			特定電気用品と特定電気用品以外の違いを学習。 テキストと表を使って違いを比較。		
6	電気技術基準			電気技術基準と電気主任技術者の業務を学習。 テキストと資料を使って解説。		
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	評価試験			各電気関係法令をしっかりと学んで、コンプライアンス遵守の電気工事をしましょう。		
10 %	90 %	%	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		電気技術者として19年の実務				

科目名		施工方法			
担当教員	富樫 久夫		実務授業の有無	有	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	2級電気工事施工管理技術検定一次試験合格のための対策と、将来電気工事士として活躍するための応用力を身につけるための授業です 単なる過去問題の答練ではなく、その奥にある実務に必要な事柄について掘り下げて学習します				
学習目標 (到達目標)	2級電気工事施工管理技術検定一次試験合格(11月12日)				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①2級電気工事施工超速マスター (TAC出版) ・②検定試験問題解説収録版 (地域開発研究所) ③第1種電気工事士筆記試験すいっと合格 (オーム社)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	電気応用 照明、電気加熱		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：照明の種類と特徴がわかる 準備学習：①P54-62、③P138-147を読んでくる		
2	動力設備 電動機・施工、同期発電機と同期電動機		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：電動機の特徴がわかる 準備学習：①P63-65、③P148-153を読んでくる		
3	構内電気設備 受電設備、発電・蓄電設備、保護装置、接地工事、低圧配線工事、雷保護設備		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：受電設備の配線図を読むことができる 準備学習：①P96-126、③P10-44を読んでくる		
4	計器・電気機器		方法：OneNoteと教科書を使い、書き込み解説 達成目標：発電機・変圧器の接続方法がわかる 準備学習：①P28-43を読んでくる		
5	模擬試験		PDFファイル		
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点	定期考査			時間数が20時間しかなく、1日の時間数が多いので、絶対に休まないこと。 検定に合格するだけでなく、電気工事の仕事をするうえで必要な知識をしっかりと身につけよう。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電子計測器メーカーで製品開発、測定システム設置監修に5年間従事。第一種電気工事士				

科目名		就職実務			
担当教員		富樫 久夫		実務授業の有無	有
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		自身の就職活動を時々振り返り、社会に出てからストレスなく働くことのできるビジネススキルを身につける			
学習目標 (到達目標)		希望する企業の内定を勝ち取り、卒業までに身につけるべき知識・技術を明確にする			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		勝つための就職ガイドSUCCESS ウィネット			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	今までの就職活動を振り返って			今までの自分の就職活動の時期・内容・取組みについて振り返り、今後の予定を確認し、就職内定までの計画を立てる	
2	自己PR文をアップグレードする			自分の強みと弱みを分析し、採用担当者の心に響く自己PR文を作成する	
3	志望動機の作成 業界・企業の分析・自分の希望との整合性			第1志望の企業を念頭に、適切な文字数の志望動機文を書き上げる	
4	ビジネス文書の書き方			社外文書・社内文書の定型文を理解する	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	期末試験		授業の前に () に示すページを読んでおくこと。 社会情勢に興味を持ち、自分のあるべきすがたを考えること。 PDF教材はiPadでの閲覧になります。	
10 %	%	90 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		担任として就職指導20年以上			

科目名		電気保全			
担当教員		富樫 久夫	実務授業の有無	有	
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	消防の組織等の用語の基本知識と消防設備第四類（自動火災警報設備）の設置基準や設備の構成を理解し、就職後に消防設備の担当者と打ち合わせができるレベルに到達する。				
学習目標（到達目標）	消防設備士乙種第四類の法令および機器の問題が解ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	消防設備士4類試験対策テキスト&問題集（インプレス）				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	消防関係法令（共通） 防火対象物、消防の組織		テキストとOneNoteにて わかりにくい用語の理解を中心に消防の制度を理解する（P.16～39）		
2	消防関係法令（共通） 消防用設備等・消防に関する資格 単元末試験		テキストとOneNoteにて 設置単位等、数字で規制されているモノの意味を理解する（P.40～53）		
3	消防関係法令（類別） 自動火災報知設備 単元末試験		テキストとOneNoteにて 設置基準とその例外について数字を中心に理解する（P.68～88）		
4	自動火災報知設備の構造と機能 受信機の構造と機能		テキストとOneNoteにて 受信機の種類を学ぶ（P.150～172）		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組み姿勢	単元末のテスト			授業のあとで、OneNoteに書いた内容を復習すること。暗記が多くなりますが、消防制度や感知器の原理の理解を目指しましょう。PDF教材はiPadでの閲覧になります。	
%	100 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	電気・電子技術者として設計の現場に5年係わっていた 消防設備士甲種4～7類				